

## b-1 細蔵山のタテヤマスギ

# 日本一のタテヤマスギ ほそぞうやま まぼろし おおすぎ 細蔵山の幻の大杉

●富山県上市町細蔵山

幹周 M11.9m(1.3m 2013) 樹高 23m 推定樹齢 1070 年(古株を含む)

「幻の大杉」は富山県上市町、細蔵山にある。細蔵山は、剣岳の展望所として有名な中山と、早月川を挟んでちょうど対岸にある山だ。標高は 1551m で、最近まで登山道がなく、ほとんど人が入った事のない山であった。

中山には幹周日本一のスギ「中山の万代杉」があり、このスギの発見に伴って、何度も中山に登る事になる。その時、対岸にある細蔵山から続く尾根にもタテヤマスギの大きな樹冠が見える事から、この尾根にも巨大なタテヤマスギがあることが予想された。そこで、積雪期に尾根づたいに登って調査する計画を立てていた。ところが、地元の山岳会の手によって登山道が付けられたという情報を得て、早速調査を開始することになり、2013 年 10 月 31 日、現地に向かった。

そして、執念で出会ったのが「幻の大杉」であった。幹周は M11.9m という結果が出た。この幹周は、天然杉で単幹日本一の縄文杉には及ばないものの、次ぎにくる屋久島の紀元杉(13.5m)や、四国・段ノ谷山の太杉(M12.53m)に匹敵する巨大さを誇る。又、タテヤマスギでは日本一であることも確認された。

主幹と 3m 上部で側幹 2 本が分岐する樹形。主幹、側幹は上部で複数に分岐、全体として 30 本程の一本杉が立上る古株更新の樹形である。(下写真は西側から撮影)



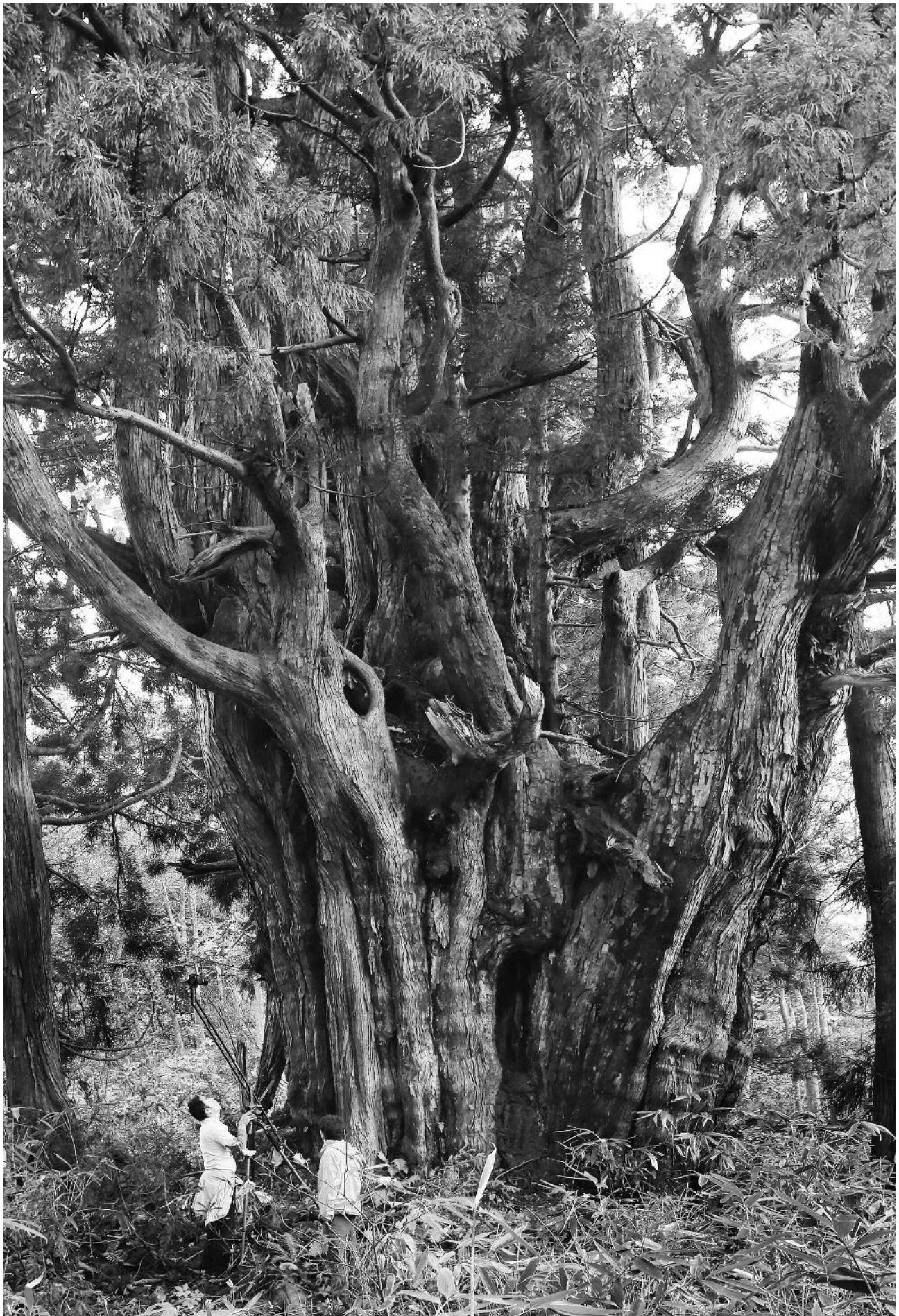


写真 T-001 ほそぞうやま まぼろし おおすぎ  
**細蔵山の幻の大杉**  
(西側から撮影。樹下のスタッフは富山テレビの撮影クルー)

この大杉は、縄文杉と同じく古株更新で形成されたと推察できる。主幹が大きく湾曲している事等から、接近した古株が2本あったのではないかと思われる。古株の上部に着生したタテヤマスギが、実生伏条で何本もの幹を立ち上げ、古株に沿って根が下がり、主幹を形成した。縦に筋が入り、激しく凹凸する様は、根の発達した痕跡である。(北側から撮影)



写真 T-002 ほそぞうやま どうすぎ  
**細蔵山の洞杉**

根元に古株の大きな空洞があり、古株更新である。上部は数本に分岐して立上がる樹形。

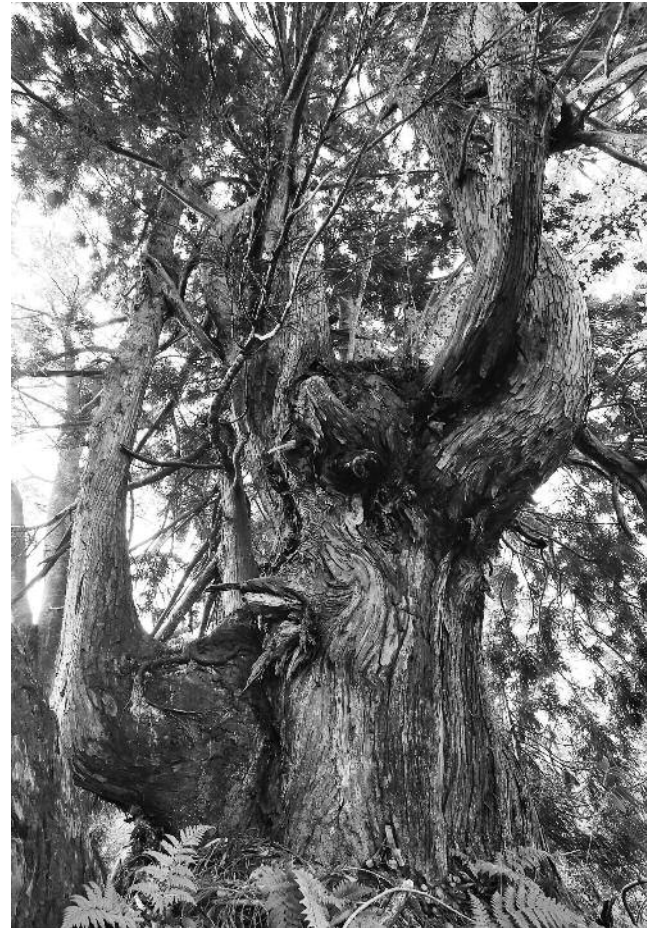


写真 T-003 ほそぞうやま てんぐすぎ  
**細蔵山の天狗杉**

尾根にあった奇樹で、巨大な枝を天狗杉の鼻に見立てた。



写真 T-005 ほそぞうやま わきじぶつすぎ  
**細蔵山の脇侍仏杉**

幻の大杉の近くにあり、大杉が釈迦如来ならば、この杉は脇侍仏である。



写真 T-004 ほそぞうやま きばすぎ  
**細蔵山の牙杉**

半分白骨化して立つ怪樹。伏条幹が風雪によって垂れ下がり、破損したもの。佐渡の天然杉で、やはり尾根に立つ「おけさ杉」の枝の姿を想像する。